

# 建築研究所ニュース



平成 24 年 9 月 21 日

## 23 名の国際地震工学研修の修了生が、1 年間の研修を終えて帰国の途へ

昨年10月に開講した第52回国際地震工学研修は、1年間の研修を修了し、9月13日に茨城県つくば市の建築研究所で閉講式が行われました。参加した14ヶ国23名の研修生全員が修士号学位を取得し、国際協力機構（以下JICA）筑波センター木邨所長らの来賓が列席するなか、建築研究所坂本理事長が修了証書を研修生に手渡し「皆さんが研修で習得された経験、知識及び研修旅行で東日本大震災の被災地を見学し体験したことを生かし、必ずや母国の発展に寄与するものと期待しております。」と挨拶しました。

研修生を代表してドゥイさん（インドネシア・気象気候地球物理庁職員）は「この研修で学んだ知識、技術や東日本大震災の被災地等を訪れた研修旅行で体験した貴重な経験を今後も大いに活用し、母国の発展に貢献できるものと確信しています。」とお礼の言葉を述べました。

9月14日には東京・六本木の政策研究大学院大学（以下GRIPS）において、建築研究所坂本理事長から研修生に修士号学位記が授与されました。

「国際地震工学研修」は、1960年に開始以来、今回の修了生を含めて、現在80ヶ国から1,057名の研修生を受け入れています。国際地震工学研修は、JICAと協力して行っており、さらにGRIPSとの連携により、所定の単位を取得すれば、修士号の取得が可能な研修となっています。その他、国際地震工学研修以外の約2ヶ月程度の様々な研修を含めた修了生の累計は、これまでに98ヶ国から1,580名を数えております。

また、去る9月11日には国土交通省を訪れ、羽田国土交通大臣への表敬訪問を実施しました。大臣から研修生に対して「特に、東日本大震災の被災地を訪れ、復興現場の視察を行ったことも、貴重な経験として今後に活かされるものと期待します。」との言葉をいただきました。

母国を遠く離れ、東日本大震災の被災地視察を含む1年間の日本での研修生活を終えた研修修了生は、それぞれの想いを胸に9月15日に帰国の途につきました。

ご面倒ですが掲載の折には、その記録を留めるため、右記問い合わせ先へお知らせ下さい。

### （内容の問合せ先）

独立行政法人建築研究所  
所 属 国際地震工学センター  
管理室長  
氏 名 黒 澤 肇  
電 話 029-879-0678(直通)  
E-mail [kurosawa@kenken.go.jp](mailto:kurosawa@kenken.go.jp)

<参考1>研修生の出身国名（14ヶ国=23名）

アゼルバイジャン、バングラディシュ、中国(2)、ドミニカ共和国(3)、  
エルサルバドル、ハイチ、インドネシア(4)、マケドニア、マレーシア(3)、  
モンゴル、ミャンマー、パキスタン(2)、ペルー、フィリピン（ABC順）  
うち地震学・地震工学コース18名、津波防災コース5名

<参考2>関係写真

(1) 第52回 国際地震工学通年研修 閉講式 (24, 9, 13)

①建築研究所坂本理事長が研修生に修了証書を授与



②研修生及び出席者



(2) 政策研究大学院大学 (GRIPS) ・学位記授与式 (24, 9, 14)

① 坂本雄三建築研究所理事長(左から2人目)が研修生に修士号学位記を授与



② 修士号学位を授与された研修生



(3) 大臣表敬 (24, 9, 11)

羽田雄一郎国土交通大臣 (前列右から3人目)

